

寺山久美子 監修

『レクリエーション—社会参加を促す
治療的レクリエーション 改訂第2版』

浅生弘美

(独立行政法人国立病院機構富山病院)

本書は、1995年に発行された「作業療法ジャーナル」増大号を時代の流れに合わせ全面的に改訂したものである。

作業療法では Activities の一環としてレクリエーション活動を用いることは多い。しかしこれで治療と呼べるのだろうか疑問に思ったり、不安になったりすることがある。本書は理論的にしっかり支持してくれ、明日からの臨床にすぐに役立つ内容を写真やイラストを交えわかりやすく解説してある。レクリエーション種目は多く、疾患・障害別、施設別という視点からも書かれており、共感でき、参考になる点が多い。また、多くの作業療法士の手によって執筆、編集、監修されており、大いに勇気づけられる。

第1章「レクリエーションの基本理念」、第2章「治療的レクリエーションの技法」では、2001年5月にWHOで採択された国際生活機能分類(ICF)の考え方をベースに事例を挙げながら噛み砕いて解説している。人の生涯発達段階と「楽しみ」との関連を調査に基づいて紹介しながら生涯的視点からレクリエーシ

ョン活動を解説してあり興味深かった。またレクリエーション活動には積極的に自己の体験を通して楽しむ活動と受動的に楽しむ活動があり、見学者であっても集団の一員としてその人らしい役割を担い、認め合い、「楽しみ」を共有できれば社会参加といえることに気づかされた。

第3章「種目別にみたレクリエーション活動」では、53の種目ごとに、①目的と意義、②ゲームの概要、③ゲームの進め方、④ゲームを行う上での注意点、⑤評価、⑥応用が明記されており、薬の薬効同様、レクリエーション効(?)である。個人的にはスポーツ編のリボン体操、エアロビクスが新鮮で今度挑戦してみたいと思った。

第4、5章では「治療的レクリエーション活動」を18の疾患・障害別と16の施設別に、①レクリエーション導入の目的と意義、②その障害(施設)に適応可能なレクリエーションの特徴と種目、③プログラムの立案から実施までの手順、④評価及び経過、⑤事例提示等が明記されている。理論的に支えられるだけでなく他施設の努力も伝わってきて勇気づけられた。

本書を適切に応用し対象者の社会参加に貢献していきたいものである。

●B5判 310頁

定価 3,360円(税込)

2004年 三輪書店・刊